



地方港湾

古江港

Furue Port

- 港湾区域認可 昭和38年4月22日
- 港湾区域告示 昭和38年6月11日
(変更) 平成18年5月15日
- 港湾区域面積 576ha
- 所在地 延岡市北浦町

漁業の町、北浦 漁業活動の拠点

沿革

本港は、県北の延岡市北浦町に所在し、風光明媚なりアス式海岸に位置しており、平成18年5月には、効率的・効果的な港湾の投資・運営を目指して、「直海港」と「古江港」が統合し、「古江港」として一元管理することとなった。

本港は、直海地区、古江地区および阿蘇地区の3つの地区で構成されている。

○取扱貨物状況

施設名(※1)	水深(m)	延長(m)	船型	品目
第4物揚場	3.0	115	20(G/T)	水産品

(※1:統計上の施設名称である)



(直海地区)

令和2年11月撮影



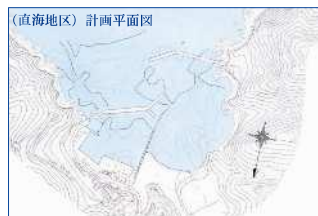
(古江地区)

令和5年2月撮影



(阿蘇地区)

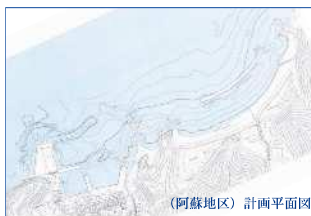
令和5年2月撮影



(直海地区) 計画平面図



(古江地区) 計画平面図



(阿蘇地区) 計画平面図

●直海地区

本地区は、県の最北端（大分県境）に位置し、地理的条件の劣る直海地区の主要な輸送手段として、また、地域住民の生活の場として大きな役割を果たしてきた。

港の整備が進むにつれ漁業が盛んとなり、現在ではまき網、底びき網などの漁業の拠点として利用されている。

●古江地区

本地区は、延岡市北浦町の中心部に位置し、古くから付近住民の生活・生産・流通の場として栄え、港も重要な役割を果たしている。

●阿蘇地区

本地区は、もともと小さな漁村にすぎなかったが、近年のハマチ等の養殖業の増加に伴い港の整備が進み、今昔の変貌の著しい港となっている。また、隣接地には美しい阿蘇海水浴場やビーチリゾート「浜木綿村」があり、多くの人で賑わっている。



地方港湾

熊野江港

Kumanoe Port

- 港湾区域認可 昭和38年4月22日
- 港湾区域告示 昭和38年6月11日
- 港湾区域面積 345ha
- 所在地 延岡市

めぐまれた自然環境とレクリエーション活動の場

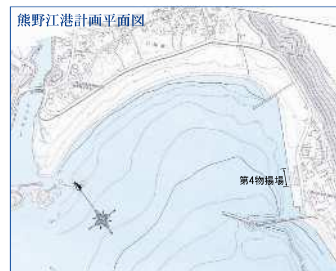
沿革

本港は、従来離島航路の基地として、また、木材の積出港として利用されていたが、現在は水産加工の製品、原材料の移出入及び漁船施設として利用されている。港の背後では宮崎県水産振興協会により栽培漁業の研究が行われている。また、隣接する海浜は、キャンプ場・海水浴場・ハングライダーの着地点となっており、県内外の人々で賑わっている。

○取扱貨物状況

施設名(※1)	水深(m)	延長(m)	船型	品目
第4物揚場	2.0	30	5(D/W)	水産品、動植物性製造飼料

(※1:統計上の施設名称である)



熊野江港計画平面図



令和3年11月撮影



地方港湾

延岡港

Nobeoka Port

- 港湾区域認可 昭和28年2月25日
- 港湾区域告示 昭和38年6月11日
- 港湾区域面積 883ha
- 所在地 延岡市

延岡市の流通拠点

沿革

本港は、一級河川五ヶ瀬川・北川の河口に位置し、延岡市を中心とする県北地域の生活物資の移出入港として古くから活用されてきた。

現在の取扱貨物の殆どは砂利・砂・原石等であるが、小型漁船の基地としても利用されており、水産品も水揚げされている。

しかしながら、本港は河口港であるため、航路の維持が困難であるとともに、河口付近においては不規則な三角波が発生し、小型船の航行に支障をきたしている。

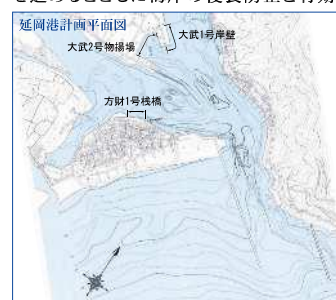
このような状況に対応するため、本港では航路泊地の浚渫、防波堤の整備を行い、航行船舶の安全確保を図っている。

また方財地区においては、漁船の係留施設が不足し、漁業活動に支障をきたしているため、物揚場の整備を進めるとともに海岸の侵食防止と有効利用を図るため、公園整備を行い、平成15年より供用している。

○取扱貨物状況

施設名(※1)	水深(m)	延長(m)	船型	品目
方財1号棧橋	3.0	125	20(G/T)	水産品
大武1号岸壁	4.5	300	300(D/T)	砂、砂利、石灰石、非金属鉱物
大武2号物揚場	3.5	245	300(D/T)	砂、砂利

(※1:統計上の施設名称である)



延岡港計画平面図



令和5年2月撮影